

医学英語Ⅱ

科目責任者 春山康夫
学年・学期 2学年・2,3学期

一
学
年

I. 前 文

医学部生にとって、医学の専門知識を習得しなければならないことは当然であり、限られた時間内で効率よく知識を吸収しなければならない。医学を学ぶ際には、英語の原書のもとより日本語で書かれている書物でも随所に英語のテクニカルタームが使われ、日常の医療現場でも頻繁に英語のテクニカルタームが施用されている。将来、医療従事者または医学研究者になるためには、英語で理解することは必要不可欠な条件となっている。医学英語Ⅱは、医学英語Ⅱで習得した能力を基礎に、医学英語Ⅲへの架け橋として、臨床英語の理解力を養う前段階と位置づける。医学英語Ⅱでは、医学一般の知識及び臨床医学に関連する基礎的な内容を教材として使用し、語彙の充実及び読解力を習得することを目的とする。また、授業内容の他、医学生に医学原書により医学知識を得ることを学習の手段として能動的に学ぶことを推奨し、評価する。

II. 担当教員

教授 春山康夫（研究連携・支援センター）
准教授 岸久司（公衆衛生学）
准教授 伊藤雅彦（生化学）
准教授 小飼貴彦（感染制御・臨床検査医学）
講師 内山浩志（研究連携・支援センター）
講師 金子堅太郎（教育支援センター）
助教 竹井元（薬理学）

III. 一般学習目標

臨床医学で用いられる英語を習得する前段階として、医学一般の知識及び臨床医学に関連する基礎的な内容を英語で学習する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 医学英語におけるテクニカルタームの意味を正確に理解できる。
- 2) 医学英語におけるテクニカルタームを書くことができる。
- 3) 英語で書かれた医学一般の知識及び臨床医学に関連する基礎的な内容を理解できる。
- 4) 医学で用いられる簡単な文章を英語で表現できる。

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション, ディベート 3：グループワーク 4：実習, フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	8	25	木	1	ガイダンス	A, B, C 班 春山康夫	6
2	9	1	木	1	読解演習（医学英語Ⅱ2022#01）	A班：金子堅太郎 B班：伊藤雅彦 C班：岸久司	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
3	9	29	木	1	読解演習（医学英語Ⅱ2022#02）	A班：金子堅太郎 B班：伊藤雅彦 C班：岸 久司	1
4	10	6	木	1	読解演習（医学英語Ⅱ2022#03）	A班：金子堅太郎 B班：伊藤雅彦 C班：岸 久司	1
5		12	水	1	読解演習（医学英語Ⅱ2022#04）	A班：金子堅太郎 B班：伊藤雅彦 C班：岸 久司	1
6	11	10	木	1	読解演習（医学英語Ⅱ2022#05）	A班：小飼貴彦 B班：内山浩志 C班：竹井 元	1
7	12	1	木	2	読解演習（医学英語Ⅱ2022#06）	A班：小飼貴彦 B班：内山浩志 C班：竹井 元	1
8		8	木	2	読解演習（医学英語Ⅱ2022#07）	A班：小飼貴彦 B班：内山浩志 C班：竹井 元	1
9		15	木	2	読解演習（医学英語Ⅱ2022#08）	A班：小飼貴彦 B班：内山浩志 C班：竹井 元	1
10	1	10	火	1	読解演習（医学英語Ⅱ2022#09）	A班：小飼貴彦 B班：内山浩志 C班：竹井 元	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

第2学期と第3学期の定期試験の合計点（80%）、事前課題・出席状況・態度（20%）によって総合評価し、定期試験60点以上を合格とする。医学原書を読む場合、成績に加点を考慮する。事前に科目責任者に医学原書の書名を提示し、口頭試問を実施する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書

授業毎に必要な教材を配布します。

参考図書

「ステッドマン医学辞典 改訂第6版」メジカルビュー社 2008年

ISBN978-4-7583-0021-6

VIII. 質問への対応方法

原則的には講義時間内に受け付けます。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

個別対応します。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載しました。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、該当する講義の要点を確認しておくこと。
（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載しました。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）。